

# 2020年度決算概況および2021年度業績予想

2021年5月20日

株式会社 J-オイルミルズ

問い合わせ先：

コーポレートコミュニケーション部 Tel.03-5148-7101

# Agenda

1

2020年度決算概況

2

2021年度業績予想

# 2020年度 連結業績概要

## 2020年度業績

(億円)	2019年度	2020年度	前年比	修正予想比
売上高	1,782.0	1,648.2	▲7.5%	+3.0%
営業利益	66.6	66.9	+0.4%	+11.5%
経常利益	73.0	73.7	+1.0%	+15.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	52.0	52.5	+1.0%	+9.4%
営業利益率	3.7%	4.1%		
ROE	5.9%	5.7%		

## 決算のポイント

### ■ 売上高

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大幅減収
  - ・業務用(主に外食向け)の販売数量減少
  - ・搾油量減少によるミール販売量減少

### ■ 営業利益

- ▶ コスト改善や経費削減を進めることで収益確保

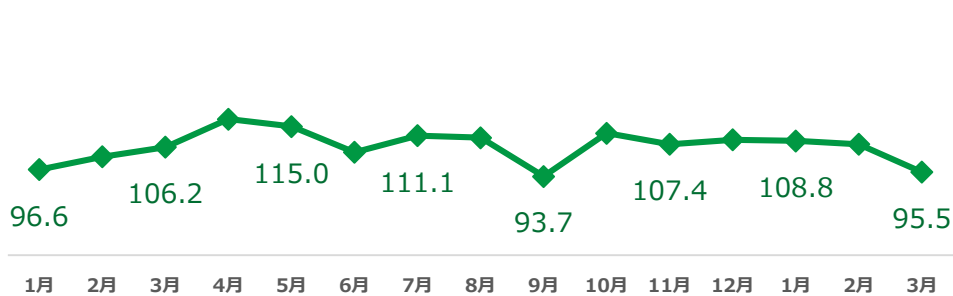
### ■ 当期純利益

- ▶ 投資有価証券売却益 +10.0億円
- ▶ 東北物流拠点で発生した火災に関する計上
  - ・特別損失:災害損失▲1.3億円
  - ・特別利益:受取賠償金+2.2億円
- ▶ ケミカル事業譲渡契約に伴う  
留保利益にかかる税効果▲5.2億円

# 新型コロナウイルスの2020年度決算への影響

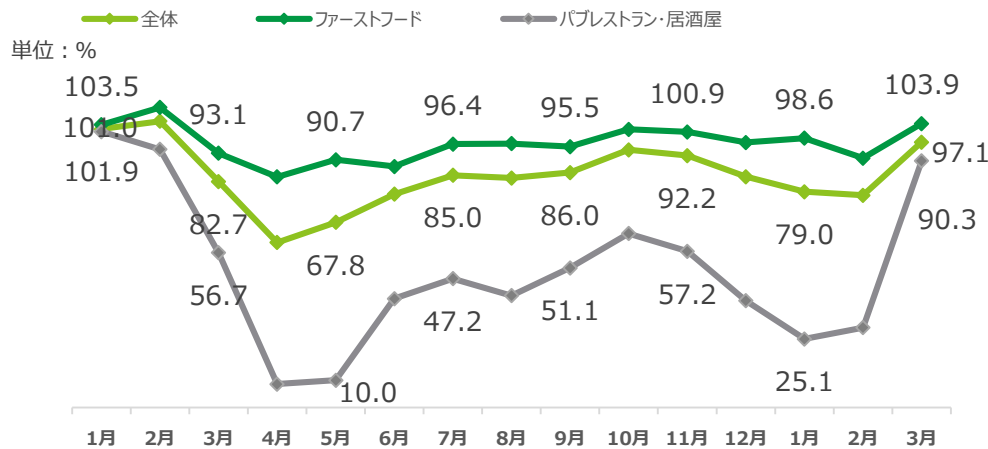
## 市場環境

【家庭用油脂 前年比較 金額ベース（平均購入規模×100）】



※インテージ社 SCIデータを基にした当社推定

【業務用油脂 外食産業市場動向調査 売上高 前年比較】



※出典:日本フードサービス協会 外食産業市場動向調査

## 当社の状況

- 家庭用油脂は内食需要の高まりにより、市場は増加したものの、微増に留まった
- 業務用油脂は外食産業の市場減退に伴い、販売数量が大幅に減少（想定線で推移）
- インバウンド需要減少、外出自粛の影響により、土産用菓子に使用される業務用マーガリンの販売数量が大幅に減少
- 中食・テイクアウト需要の高まりにより、経時劣化抑制、食感改善機能のある高付加価値スターチが伸長
- シート状大豆食品「まめのりさん<sup>®</sup>」は、北米の外食自粛により販売数量減少。下期はデリバリー用途などの新たな需要を創出し、回復傾向

## 2020年度 セグメント別業績

- 前年比では売上高は大きく減収したものの、営業利益では増益で着地
- 修正予想比では油脂の需要増加とコスト削減効果により売上、利益ともに予想を上回り着地

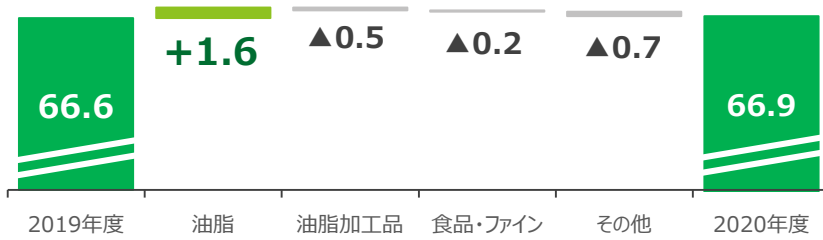
### 2020年度業績

(億円)	2019年度	2020年度	前年比	修正予想	修正予想比
<b>売上高</b>					
油脂事業	1,504.9	1,389.0	▲7.7%	1,340.0	+3.7%
油脂加工品事業	127.6	121.3	▲4.9%	120.0	+1.1%
食品・ファイン事業	136.6	127.9	▲6.4%	130.0	▲1.6%
その他事業	12.9	10.0	▲22.5%	10.0	+0.1%
連結合計	1,782.0	1,648.2	▲7.5%	1,600.0	+3.0%
<b>営業利益</b>					
油脂事業	60.6	62.2	+2.7%	55.0	+13.2%
油脂加工品事業	▲4.0	▲4.4	-	▲3.7	-
食品・ファイン事業	7.7	7.5	▲2.2%	7.5	+0.5%
その他事業	2.3	1.5	▲32.0%	1.2	+27.6%
連結合計	66.6	66.9	+0.4%	60.0	+11.5%

# 2020年度 営業利益増減分析

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円



一般経費他内訳	
人件費	▲4.1
広告費	+9.2
販売促進費	+5.5
その他	+11.0

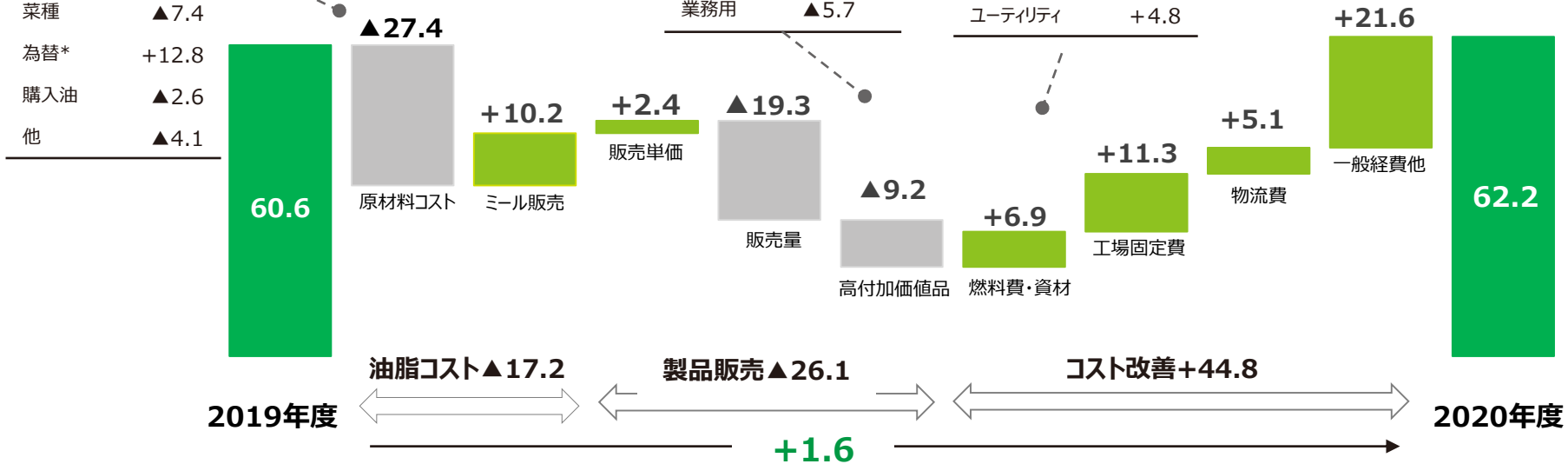
【油脂事業 営業利益増減分析】

原材料コスト内訳	
大豆	▲26.1
菜種	▲7.4
為替*	+12.8
購入油	▲2.6
他	▲4.1

高付加価値品	
家庭用	▲3.5
業務用	▲5.7

燃料費・資材内訳	
資材	▲0.3
燃料	+2.3
ユーティリティ	+4.8

単位：億円



\*為替・・・19年度:109円/1ドル、20年度・・・107円/1ドル

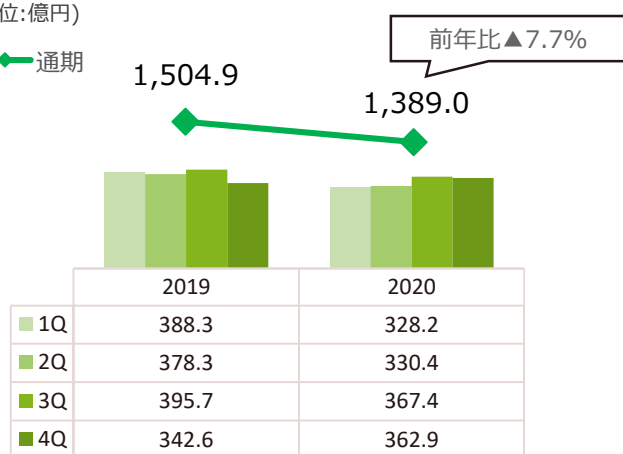
# セグメント別業績：油脂事業

- 家庭用油脂の販売量は微増で推移
- 外食企業を中心とした油脂需要の減少により、業務用油脂の販売量減少
- 製造費用と一般管理費のコストダウン推進

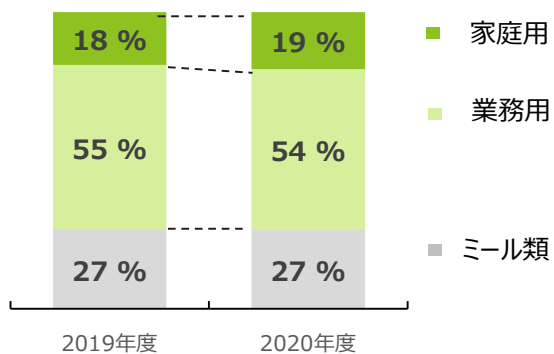
## 売上高

(単位:億円)

◆ 通期



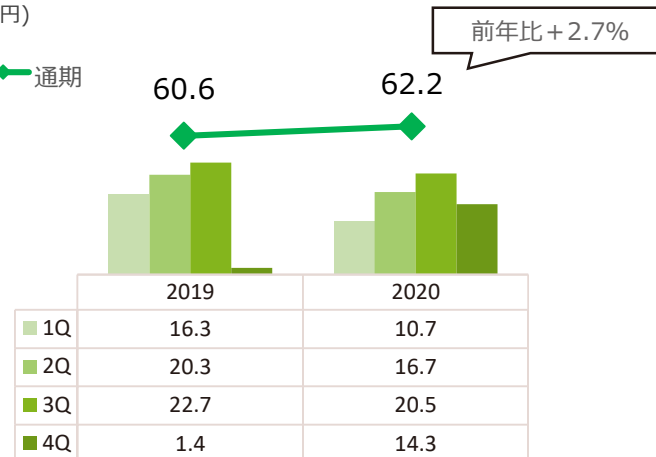
### 【売上高構成比】



## 営業利益

(単位:億円)

◆ 通期



### 【営業利益増減分析】

(単位:億円)

	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
家庭用油脂		▲ 4.2	+ 1.3	
業務用油脂		+ 2.4	▲ 25.6	
ミール類		+ 17.5	▲ 7.3	
合計	+ 1.6	+ 15.7	▲ 31.6	+ 17.5

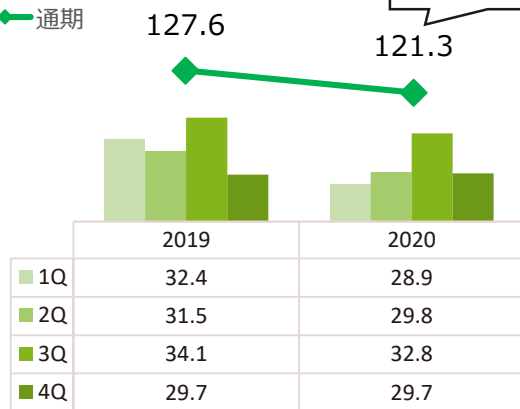
# セグメント別業績：油脂加工品事業

- 内食需要の高まりを受けて家庭用マーガリンの販売量は3Qまでは、前年を超える水準で推移したが4Qに一巡し微減
- 業務用マーガリンはインバウンド、土産菓子向け需要減少  
原料であるパーム油の価格上昇、その他の原料調達コスト改善の遅れにより採算悪化
- 粉末油脂は前年並みで着地

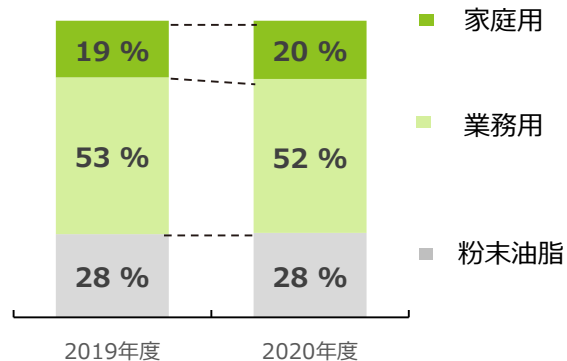
## 売上高

(単位:億円)

◆ 通期



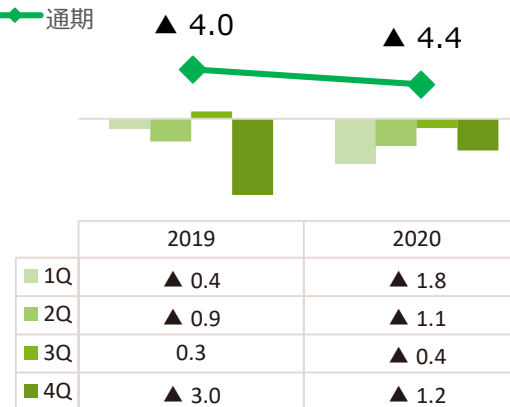
### 【売上高構成比】



## 営業利益

(単位:億円)

◆ 通期



### 【営業利益増減分析】

(単位:億円)

	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
家庭用マーガリン		▲ 0.4	▲ 0.1	
業務用マーガリン		▲ 0.1	▲ 2.4	
粉末油脂		▲ 0.1	▲ 0.1	
<b>合計</b>	<b>▲ 0.5</b>	<b>▲ 0.6</b>	<b>▲ 2.6</b>	<b>+ 2.7</b>



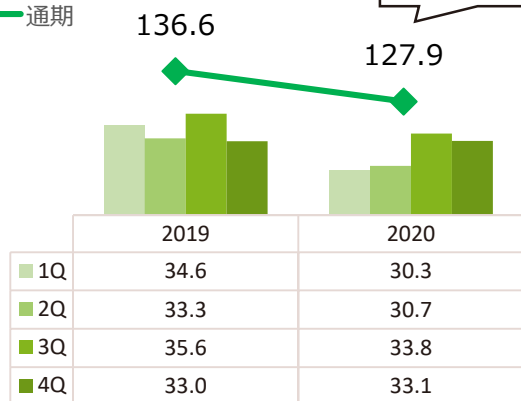
# セグメント別業績：食品・ファイン事業

- 高付加価値スターチは品質・食感改良材として中食・外食への採用増加
- ファイン事業はビタミンK<sub>2</sub>の販売好調、  
新型コロナウイルス感染症の影響により主要販売先が北米であるSOYシートは販売減少
- ケミカル事業はコロナ禍の影響による住宅需要急減、需要家の値下げ圧力の増加により、売上高及び数量が減少

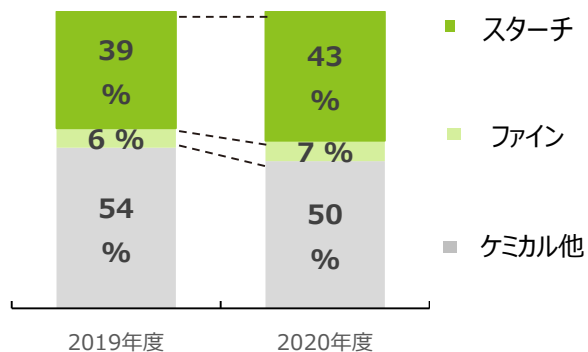
## 売上高

(単位:億円)

◆ 通期



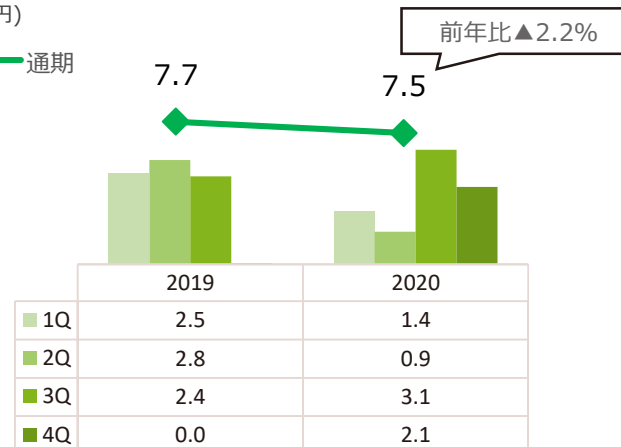
### 【売上高構成比】



## 営業利益

(単位:億円)

◆ 通期



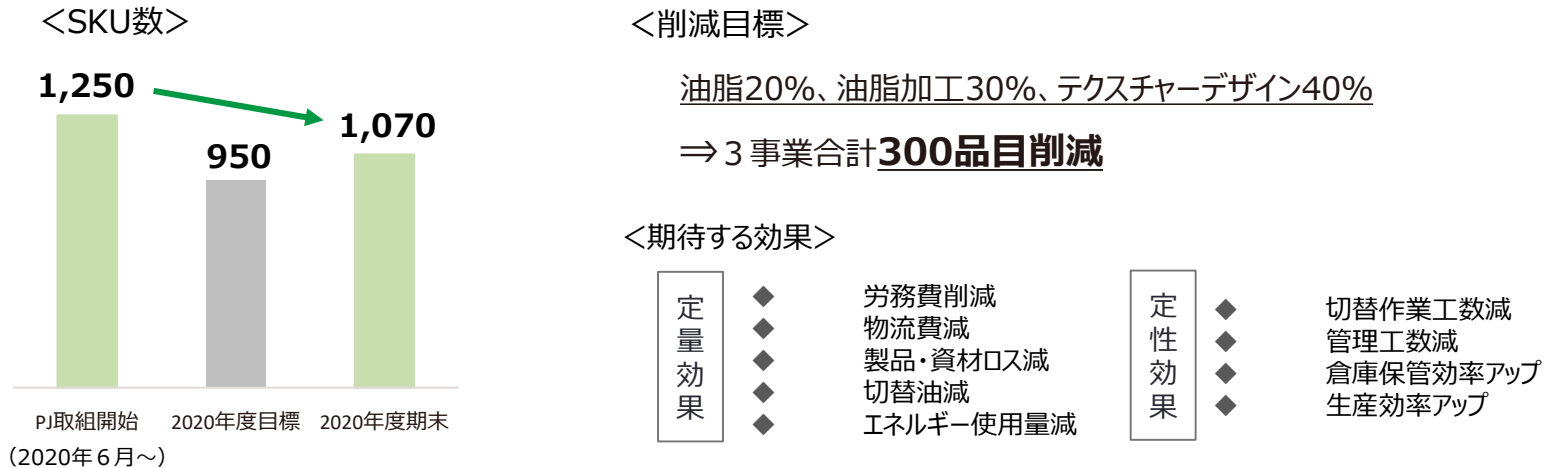
### 【営業利益増減分析】

(単位:億円)

	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
スターチ		+ 0.9	+ 0.6	
ファイン		▲ 0.4	▲ 0.4	
ケミカル他		▲ 5.1	▲ 0.9	
合計	▲ 0.2	▲ 4.6	▲ 0.7	+ 5.1

# 構造改革:SKU削減

- 構造改革の基盤固めとして、事業の筋肉質化を推進  
プロセスを通じて一つ一つの製品の存在意義を改めて見直し、今後の成長に繋げていく



<削減実績> ⇒ 3事業合計 **180品目削減、一部進捗が遅れたが2021年度に70品目削減見込み**  
**収益改善により17品目存続**

<2020年度 営業利益におけるインパクト>

⇒ SKU削減効果 NET利益 **1億円改善**

2021年度にかけても削減効果を見込む

- 終売、利益率改善を主目的としたアイテム統合を推進、目標未達となったが一定の成果が得られた
- 2021年度からは新製品導入基準・終売基準の運用を開始し、今後も引き続きSKU管理を実施していく

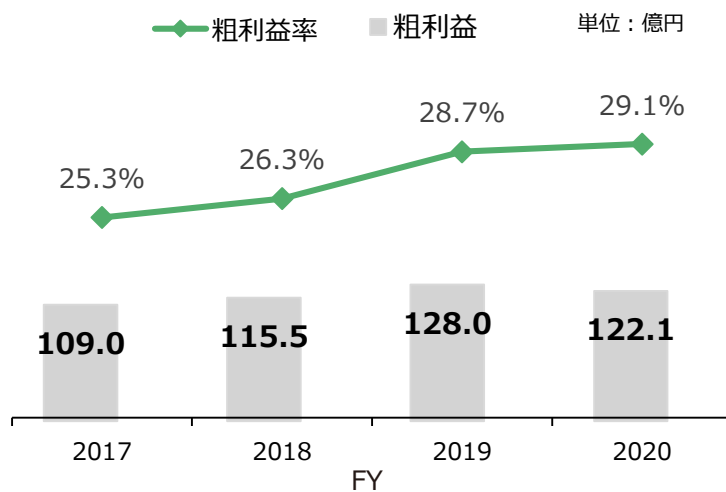
# 成長戦略:高付加価値品の状況

- 新型コロナウイルス感染症の影響により売上高、粗利益共に前年を下回るが、高付加価値品の粗利益率、連結構成比は微増で推移

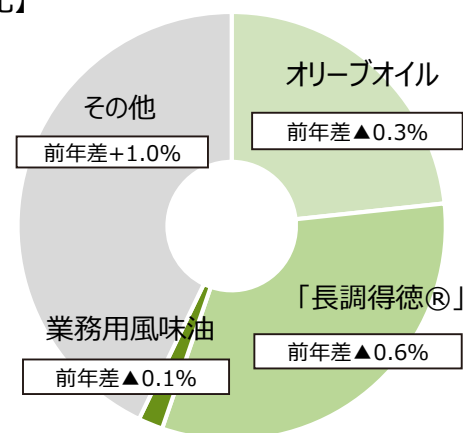
【高付加価値品推移】

単位：億円

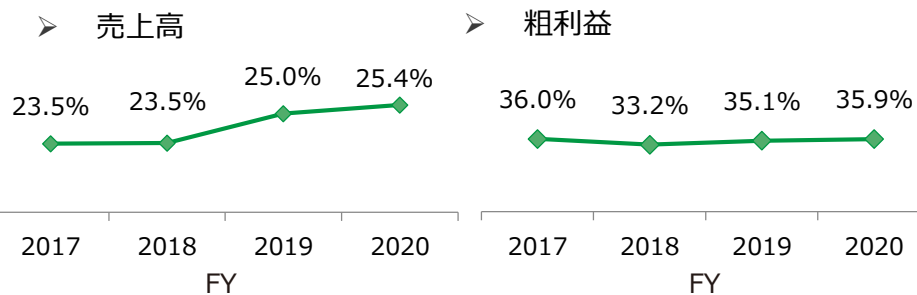
		2019年度	2020年度	対前年 増減率
高付加 価値品	売上高	445.4	419.2	▲5.9%
	粗利益	128.0	122.1	▲4.6%
	粗利益率	28.7%	29.1%	-



【売上高構成比】



【連結全体構成比】



# B/S・C/F・配当

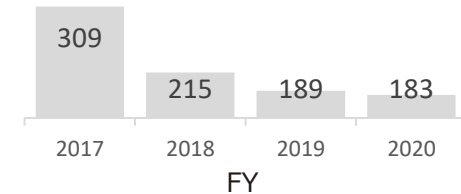
## ■ B/S：原材料価格上昇により、棚卸資産の増加

連結貸借対照表

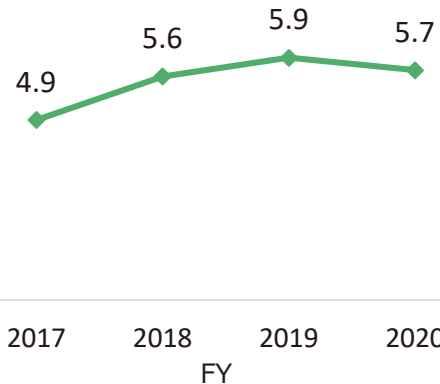
(億円)

	19年期末	20年期末	増減		19年期末	20年期末	増減
流動資産	739	827	88	負債	579	620	42
現預金	84	78	▲ 6	仕入債務	124	186	62
売上債権	340	360	20	有利子負債	189	183	▲ 6
棚卸資産	288	359	72	引当金	52	46	▲ 6
その他	28	29	2	その他	213	205	▲ 8
固定資産/繰延資産	736	738	2	純資産	897	945	48
有形・無形資産	582	569	▲ 12	株主資本	859	895	36
投資その他	155	169	14	包括利益他	35	46	12
資産計	1,475	1,565	90	非支配株主持分	3	3	0
				負債・純資産計	1,475	1,565	90

有利子負債の推移  
(億円)

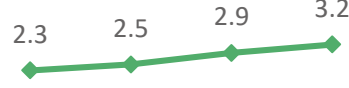


## ■ ROE分解



収益性

<売上高純利益率>



- 売上高は減少したが、製品構成改善とコスト改善により利益の確保
- 資源の選択と集中により効率的な経営を推進

効率性

<総資産回転率>



- 投資有価証券等を含む資産売却、適切な在庫水準の維持に努めたが、2020年度は原料高と株価上昇により資産が増大

安全性

<財務レバレッジ>

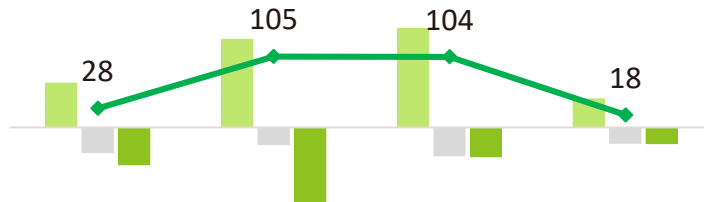


- 財務の健全性を確保しつつ、財務レバレッジを活用するとしていた
- 将来を見据えた成長投資に備えたが、マレーシアのM&Aに留まった

# B/S・C/F・配当

## 【キャッシュフロー推移】

単位：億円



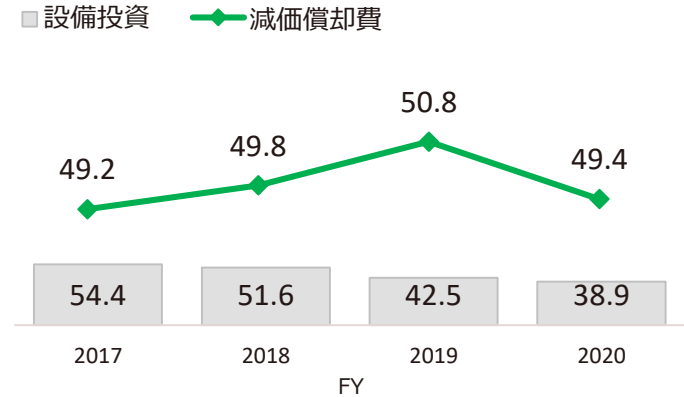
	2017	2018	2019	2020
営業C/F	66	131	146	43
投資C/F	▲ 38	▲ 26	▲ 42	▲ 24
財務C/F	▲ 56	▲ 111	▲ 44	▲ 25
フリーC/F	28	105	104	18

## 【資本の財源及び資金の流動性についての分析】

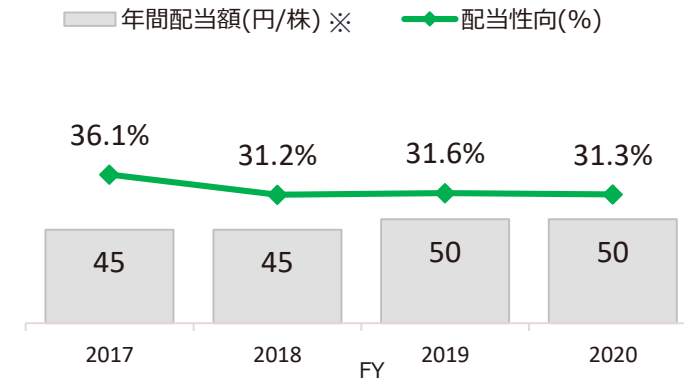
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
自己資本比率(%)	54.7	58.8	60.6	60.1
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	5.4	2.0	1.6	5.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	50.4	127.5	172.7	36.3

## 【設備投資の状況】

単位：億円



## 【株主還元】



※2021年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割したため、当該株式分割が行われたと仮定し算定しております

# Agenda

1

2020年度決算概況

2

**2021年度業績予想**

# 2021年度 業績予想

## 2021年度予想

(億円)	2020年度	2021年度	前年比
売上高	1,648.2	2,050.0	+24.4%
営業利益	66.9	50.0	▲25.2%
経常利益	73.7	54.0	▲26.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	52.5	50.0	▲4.8%
営業利益率	4.1%	2.4%	
ROE	5.7%	5.2%	

### ※2021年度ケミカル事業譲渡による影響

売上高 … ▲52.0億円

営業利益 … ▲5.3億円

## ポイント

### ■ 売上高

- 業務用油脂の販売量増加 (+)
- 高付加価値品の売上拡大 (+)
- 油脂製品の価格改定 (+)
- ミール販売価格の上昇 (+)
- スペシャルティフード事業の拡大 (+)
- ケミカル事業譲渡による減収 (-)

### ■ 営業利益

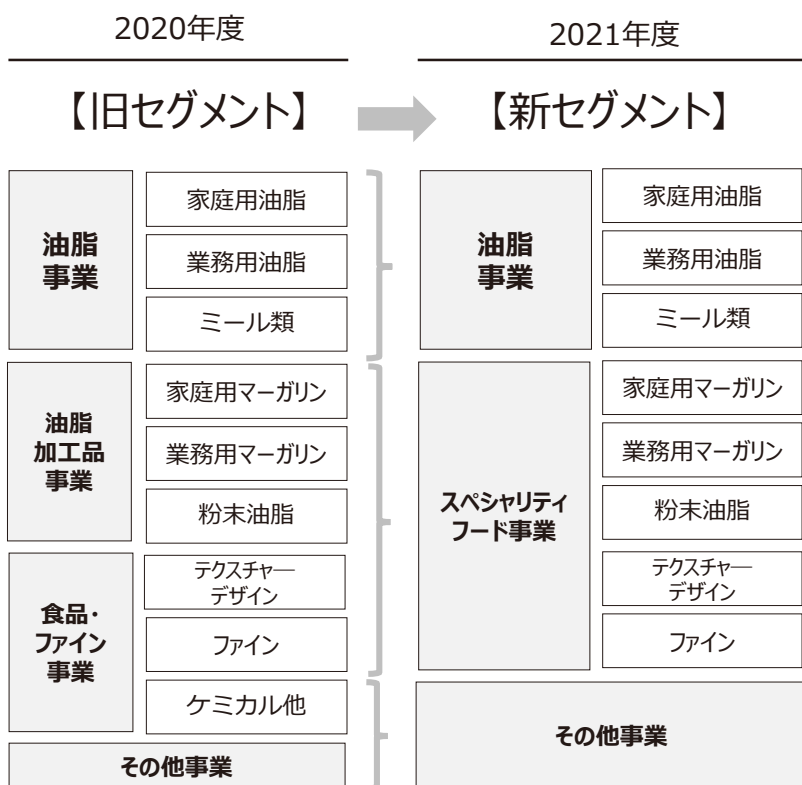
- 油脂製品の価格改定 (+)
- スペシャルティフード事業の拡大 (+)
- 原料コストの大幅な上昇 (-)
- 販売量増加による物流費増加 (-)
- 工場固定費の増加 (-)
- 広告費、人件費の増加 (-)
- ケミカル事業譲渡による減益 (-)

### ■ 当期純利益

- ケミカル事業関連益 +13億円

# 2020年度 セグメント別業績

- 油脂事業・スペシャリティフード事業・その他事業の3事業へセグメントを変更
- ケミカル事業譲渡により、その他事業は減収・減益



2021年度予想			
(億円)	2020年度	2021年度 予想	前年比
<b>売上高</b>			
油脂事業	1,389.0	1,806.0	+30.0%
スペシャリティフード事業	197.1	226.0	+14.6%
(内 油脂加工品事業)	121.3	132.0	+8.8%
その他事業	62.0	18.0	▲71.0%
連結合計	1,648.2	2,050.0	+24.4%
<b>営業利益</b>			
油脂事業	62.2	43.0	▲30.9%
スペシャリティフード事業	▲2.2	5.3	-
(内 油脂加工品事業)	▲4.4	▲1.8	-
その他事業	6.8	1.7	▲75.2%
連結合計	66.9	50.0	▲25.2%



# 2021年度 計画前提

## ■ 連結業績

(億円)	2020年度		2021年度		前年比	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	783.2	865.0	940.0	1,110.0	+20.0%	+28.3%
営業利益	27.9	38.9	0.0	50.0	▲100.0%	+28.4%

## ■ 原料・為替状況

		20'1Q		20'2Q		20'3Q		20'4Q		21'1Q		21'2Q		21'3Q		21'4Q	
		実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	前提 (前年)	対前年差	前提 (前年)	対前年差	前提 (前年)	対前年差
仕入	大豆 ¢/Bu <sup>※2</sup>	891.2 (905.0)	▲13.8	851.2 (866.2)	▲15.0	931.7 (873.0)	+58.7	1,137.2 (914.3)	+222.9	1391.6 (891.2)	+500.4	1,540.0 (851.2)	+688.8	→	→	→	→
	菜種C\$/MT <sup>※3</sup>	463.3 (472.2)	▲8.9	465.1 (448.1)	+17.0	494.1 (447.9)	+46.2	568.3 (458.8)	+109.5	737.7 (463.3)	+274.4	925.0 (465.1)	+459.9	→	→	→	→
	ミール1-%	66.6 (67.7)	▲1.1	68.2 (68.8)	▲0.6	65.6 (67.6)	▲2.0	67.8 (65.8)	+2.0	63.8 (66.6)	▲2.8	57.0 (68.2)	▲11.2	→	→	→	→
	為替レート	109.0 (110.2)	▲1.2	107.6 (110.0)	▲2.4	106.2 (107.3)	▲1.1	104.4 (108.7)	▲4.3	105.9 (109.0)	▲3.1	108.0 (107.6)	+0.4	→	→	→	→

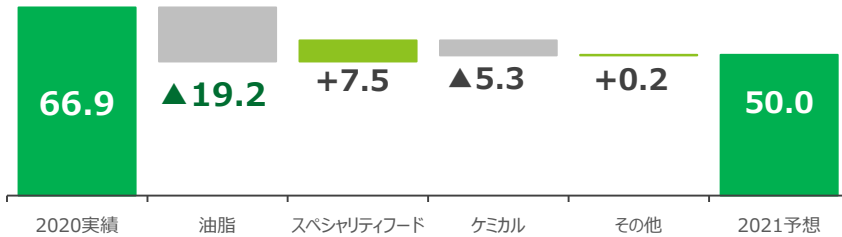
※1:搾油原料の買付けは基本的に約3カ月前の時点にて行っており、  
本図では各期の業績に影響のある期間相場の平均値を示しています ※2:シカゴ相場 ※3:ウィニペグ相場

## ■ 為替感度・・・1円変動 ±3億円～4億円 / 年 USDル

# 2021年度 営業利益増減分析（前年差）

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円



【油脂事業 営業利益増減分析】

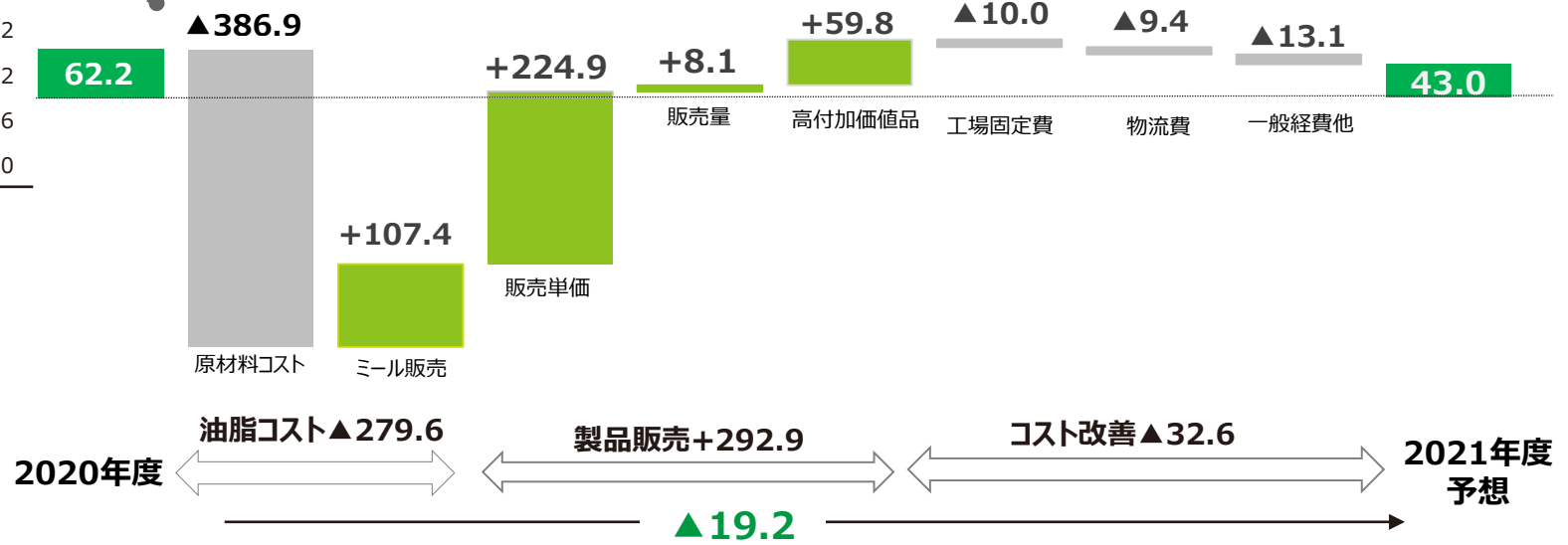
大豆	▲160.9
菜種	▲216.2
為替*	▲7.2
購入油	▲18.6
他	+16.0

家庭用	+5.5
業務用	+54.3

人件費	▲1.1
修繕費	▲5.6
その他	▲3.3

人件費	▲2.0
広告費	▲5.4
旅費交通費	▲1.5
その他	▲4.2

単位：億円



\*為替・・・21年度予想:108円/1ドル、20年度実績・・・107円/1ドル



JOYL

Joy for Life

# 大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

\*原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2017年4月を1とする (図中では2017年7月を1となる))

- シカゴ大豆
- 東京円為替
- ウィネベグ菜種 (US\$ベース)



# オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

\*原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2017年4月を1とする(図中では2017年7月を1となる))



# ミールバリューの動向



\* シカゴ大豆定期1ブッシェルから産出する大豆油と大豆ミールの価値の合計と大豆1ブッシェルの価格の差